



平成30年9月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成30年1月26日

上場会社名 株式会社篠崎屋

上場取引所 東

コード番号 2926 URL <http://www.shinozakiya.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役会長 (氏名) 樽見 茂

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理グループ長兼経営企画部長兼IR室長 (氏名) 矢立 実

TEL 048-970-4949

四半期報告書提出予定日 平成30年2月5日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年9月期第1四半期の業績(平成29年10月1日～平成29年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年9月期第1四半期	1,088	△3.2	26	△35.2	26	△35.1	20	△36.4
29年9月期第1四半期	1,125	11.6	41	—	41	—	31	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年9月期第1四半期	1.42	—
29年9月期第1四半期	2.23	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭
30年9月期第1四半期	1,730	1,211	1,211	1,226	70.0	85.57
29年9月期	1,810	1,226	1,226	1,226	67.8	86.65

(参考)自己資本 30年9月期第1四半期 1,211百万円 29年9月期 1,226百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年9月期	—	—	—	2.50	2.50
30年9月期	—	—	—	—	—

平成30年9月期の配当予想額につきましては、業績予想の開示を行っていないことから、現時点において未定とさせていただきます。配当につきましては業績予想の見通しを開示した際にお知らせいたします。

3. 平成30年9月期の業績予想(平成29年10月1日～平成30年9月30日)

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、第2四半期累計期間につきましては同第2四半期中、及び同通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

30年9月期1Q	14,436,600 株	29年9月期	14,436,600 株
30年9月期1Q	278,800 株	29年9月期	278,800 株
30年9月期1Q	14,157,800 株	29年9月期1Q	14,157,800 株

※四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。業績見通し等の前提となる仮定及び業績見通し等のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料3ページ、「(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」を参照してください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(重要な後発事象) .....	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間の売上高は1,088,668千円（前年同四半期比3.2%減）、営業利益は26,731千円（前年同四半期比35.2%減）、経常利益は26,756千円（前年同四半期比35.1%減）、四半期純利益は20,110千円（前年同四半期比36.4%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(小売事業)

当社は、「三代目茂蔵」のブランド力を強化・確立することで、売上高及び利益の向上を図ってまいります。

商品につきましては、消費者にとって価値のある商品づくりを目指し、①豆腐、豆乳、おから等を使用した「茂蔵オリジナル商品」、②それ以外の厳選された「定番商品」、③協力工場等からの「本日のお買い得品」の3つに分類し、この中でも特に茂蔵でしか購入することのできない「茂蔵オリジナル商品」を開発・強化してまいります。

当第1四半期におきましては、「茂蔵オリジナル商品」を開発・販売することで顧客数の増加を図り、「本日のお買い得品」及びイベント企画商品による、中・高価格帯の商品を投入することで、顧客単価の上昇と商品売上総利益率の上昇に努めました。また、店舗におきましては、「三代目茂蔵」ブランドの認知度向上を推し進めるため、2店舗において売り場の見直しを行いました。

これらより、1商品あたり買上単価は前年同四半期比106.6%となったことが貢献し、1店舗平均の顧客単価は同104.1%となりました。しかしながら、「茂蔵オリジナル商品」の強化による顧客数の増加には、店舗での売り場の見直し等も必要となることから時間がかかると考えており、1店舗平均の顧客数は前年同四半期比93.0%となりました。なお、出店につきましては既存業態を1店舗出店しました。

上記のことから、売上総利益につきましては、商品売上原価率が前年同四半期比0.6ポイント改善し売上総利益率は31.2%となり、前年同四半期と比較して0.7ポイント上昇しました。一方でパート従業員の時給上昇などによる人件費の増加が前年同四半期比11.9%となったこと等が要因となり、販管費率は前年同四半期と比較して2.0ポイント上昇し、営業利益率は前年同四半期の6.5%から1.3ポイント減少し5.3%となりました。

以上の結果、小売事業の売上高は926,838千円（前年同四半期比0.7%減）、セグメント利益（営業利益）は48,966千円（前年同四半期比19.8%減）となりました。

(その他事業)

その他事業は、小売加盟店及び業務用得意先への卸売事業並びに通販事業であります。

その他事業の売上高は161,829千円（前年同四半期比15.6%減）、セグメント利益（営業利益）は12,370千円（前年同四半期比26.6%増）となりました。

なお、当第1四半期累計期間の出店状況は、次のとおりであります。

(単位：店)

		前事業年度末 店舗数	増加	減少	当第1四半期末 店舗数
小売事業	「三代目茂蔵」(直営店)	55	1	2	54
その他事業	「三代目茂蔵」(加盟店)	150	—	2	148
合計		205	1	4	202

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第1四半期会計期間末における資産の残高は、前事業年度末と比較して80,285千円減少し1,730,152千円となりました。主な要因は、現金及び預金の減少88,774千円、売掛金の増加9,536千円及び商品の増加7,138千円等によるものであります。

(負債)

当第1四半期会計期間末における負債の残高は、前事業年度末と比較して65,000千円減少し518,625千円となりました。主な要因は、買掛金の減少44,704千円、未払金の減少8,353千円及び未払法人税等の減少26,218千円等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、前事業年度末と比較して15,284千円減少し1,211,527千円となりました。これは四半期純利益20,110千円の計上と配当金35,394千円の支払により利益剰余金が15,284千円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、天候等の外部変動要因による業績への影響が大きく、予測が困難なため現時点での予想の開示は行っておりません。なお、情報開示につきましては既存店等の情報を月次で開示するとともに、第2四半期累計期間につきましては同第2四半期中、及び同通期につきましては同第4四半期中を目処に、分かり次第、速やかに適時開示をまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年9月30日)	当第1四半期会計期間 (平成29年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	584,365	495,591
売掛金	124,567	134,104
商品	88,154	95,292
貯蔵品	1,169	1,565
その他	41,470	38,108
貸倒引当金	△50	△50
流動資産合計	839,677	764,611
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	109,210	104,814
構築物（純額）	8,310	8,010
工具、器具及び備品（純額）	20,116	18,731
土地	562,970	562,970
その他（純額）	4,356	8,790
有形固定資産合計	704,964	703,316
無形固定資産	15,096	13,880
投資その他の資産		
敷金及び保証金	179,256	179,256
その他	71,661	69,294
貸倒引当金	△219	△208
投資その他の資産合計	250,699	248,343
固定資産合計	970,760	965,540
資産合計	1,810,437	1,730,152
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	366,375	321,671
未払金	126,953	118,600
未払費用	42,204	48,308
未払法人税等	36,745	10,526
債務保証損失引当金	3,050	1,500
その他	7,129	16,851
流動負債合計	582,459	517,458
固定負債	1,166	1,166
負債合計	583,625	518,625
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,000,000	1,000,000
資本剰余金	120,446	120,446
利益剰余金	147,109	131,825
自己株式	△40,896	△40,896
株主資本合計	1,226,660	1,211,376
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	150	150
評価・換算差額等	150	150
純資産合計	1,226,811	1,211,527
負債純資産合計	1,810,437	1,730,152

（2）四半期損益計算書  
（第1四半期累計期間）

（単位：千円）

	前第1四半期累計期間 （自平成28年10月1日 至平成28年12月31日）	当第1四半期累計期間 （自平成29年10月1日 至平成29年12月31日）
売上高	1,125,177	1,088,668
売上原価	798,334	764,701
売上総利益	326,842	323,966
販売費及び一般管理費	285,601	297,235
営業利益	41,241	26,731
営業外収益		
受取利息	9	7
その他	26	24
営業外収益合計	36	32
営業外費用		
その他	35	6
営業外費用合計	35	6
経常利益	41,242	26,756
特別利益		
債務保証損失引当金戻入額	500	775
特別利益合計	500	775
特別損失		
店舗閉鎖損失	1,246	—
特別損失合計	1,246	—
税引前四半期純利益	40,496	27,531
法人税、住民税及び事業税	8,859	7,421
法人税等合計	8,859	7,421
四半期純利益	31,637	20,110

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間（自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	933,489	191,687	1,125,177	—	1,125,177
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	933,489	191,687	1,125,177	—	1,125,177
セグメント利益	61,050	9,767	70,818	△29,576	41,241

(注) 1. セグメント損益の調整額△29,576千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用29,576千円であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間（自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期 損益計算書 計上額 (注2)
	小売事業	その他事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	926,838	161,829	1,088,668	—	1,088,668
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	926,838	161,829	1,088,668	—	1,088,668
セグメント利益	48,966	12,370	61,337	△34,606	26,731

(注) 1. セグメント損益の調整額△34,606千円は各報告セグメントには配賦していない全社費用34,606千円であります。全社費用は報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。